

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団 木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 1階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25番地1		
自己評価作成日	平成28年12月29日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2296900075-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が御家族様及び地域の皆様との交流を通して、地域に開かれた風通しの良い施設を目指しております。日々の散歩・外出、イベント等、外へ出る機会を出来る限り計画し、また地域の皆様が気軽に足を運んで頂けるよう、イベントの開催や防災訓練にも力を入れています。入居者本人とご家族が望む生活の実現に向けて、敷地内にある畑を活用し、夏野菜から秋の収穫まで一年を通して、農作業活動を入居者職員と共に汗を流しています。

開設2年目となり、マルチ(太陽光を集めるシート)まで導入して本格的に耕作をおこない、茄子、ゴーヤ、南瓜、紫蘇、白菜、海老芋、ニンニクと農家顔負けに畑も育っています。「朝日をしっかり浴びる」ことに着眼して、午前うちに事業所を周遊して畑の観察などすることで1日に1回は戸外にでることが叶い、またすぐ近くに家宅のある利用者のオープンガーデンを休憩処とさせてもらい、地域交流にもつなげています。流しソーメンと焼き芋企画では、ソーメンを流す竹は子どもたちの集いに貸し出すことになり、また「甘くておいしい」と人気の焼き芋は、福田ふれあい祭りへの出店に至り、「とても2年目とは思えない」暮らしぶりに感心しきりです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を玄関や2階エレベーターホールに掲示して、理念の実現に向けて努力している。	想いを文章化し、それを具体的な言葉で4項にまとめた理念が在ります。長い文言のため、会議の場だけでなく管理者が常の何気ない場面でも「家庭的な雰囲気というのはね～こういうことなんだよ」とフォローしており、概ね理解は進んでいます。	職員も実現が実感できるよう月間目標、年度目標があるとのおいしいと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人合同開催による夏祭りや、交流会の呼びかけなど、地域のボランティア活動の受け入れをしている。	年2回の交流会実施を目標に流しソーメンと焼き芋を企画しています(焼き芋は雨天で内部実施に留まりました)。ソーメンを流す竹は子どもたちの集いに貸し出すことになり、また「甘くておいしい」と人気の焼き芋は、福田ふれあい祭りへの出店に至っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への参加を通して事業所の特徴を知っていただくこと。運営推進会議にて日ごろの活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の生活の様子や活動状況の報告をしている。皆さまの意見を参考にしてサービスの向上に繋げている。	運営推進会議で報告することをねらいとして、2ヶ月に1度写真で溢れた「つどいだより」を発行しています。「地域の防災訓練には事業所に立ち寄ってもらえないか？」等具体的な話し合いが成され、昨年度課題としていた「議事録を家族に届ける」も実現させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めには入居状況の報告をしている。市職員への相談、助言、指導を受けて対応している。	運営推進会議には市役所、地域包括支援センター職員双方の顔が揃い、また「地域住民を中心に決めてくれたら合わせるよ」と日程にも協力的です。また包括を核に密着型のリーダー5名で結成した「認知症ケア～地域福祉」を推進する「福田Five」の今後にも期待が膨らみます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をせず、職員で協力しながら見守り対応している。同法人である老健での勉強会にも参加し、理解を深めている。	同法人で近接に立地している福田西病院、於保老人保健施設で各々月1回、本件に係る学習会があり、勤務票を工夫することで職員が参加できています。またパートタイマー職が休日返上で出席することもめずらしくなく、正社員の刺激にもなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会への参加にて、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方もおり、保佐人と連絡を取り合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書と契約書を交付し、説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱を設置し、窓口を明確化している。	家族会という形を成してはませんが、毎月の行事や運営推進会議にも加わってもらえ、ある月では延べ81名の面会者があるほど近親者の来訪が盛んです。こづかい帳のフォーマットを家族意見から替えた例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回間隔で、ユニット会議を設けて定期的に意見や情報の共有化を図っている。	2週間に1度あるユニット会議のほか勉強会を兼ね月1回職員会議があります。管理者による個人面談はないものの、リーダーが核となってボトムアップを際立たせています。保健師資格をもつ者や歯科衛生士業務と兼務の介護職員がおり、個々の専門意見も光ります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて、働きやすい職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて、定期的に確認している。法人の月一で開催する勉強会への参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福ちゃん会、事業者連絡会や地域ケア会議への参加をして、情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居できるように、一回又は複数回の面接する機会を設け、要望を聞くことで、信頼されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困ったことや不安があれば、いつでも相談できる事を説明し、可能な限り時間外の相談や訪問も受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、医師や老健のNsやOT、栄養士と連携し、その方にあったサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念の下、個人を尊重し支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時本人とゆっくり過ごしてもらえぬ雰囲気作りを整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容院など)や友人との交流が継続できる支援を心掛けている。	友人が訪れ、連れだってショッピングにでかける利用者のほか3名が通い慣れた理美容に通い、家族の送迎が無理となれば職員が付添うのも「情報収集のうち」として前向きに支援しています。一色の祭りや餅投げでは「こっちだよ」と声をかけてもらえ、地域行事にも混じっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のテーブル、席を工夫して良い関係が作れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は特に行われていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の行動を照らし合わせ、言葉にならない思いを感じ取り、再度意向を確認するよう努めている。	アセスメントについては今以上の向上を目指して「私の姿と気持ちシート」「24時間シート」で模索中ですが、未だ全ての利用者の洗い出しはできていません。また利用者全員が運営推進会議に出席していて、進行役がふれば発言もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取り、家族やケアマネによる情報をすり合わせて、今までの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムによるアセスメントを行っているが、有する力の把握がし辛い為、アセスメント表を検討中である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週一回の職員会議で、次週の個別援助計画を作成、必要時モニタリングや介護計画の見直しを行っているが、記録が十分とは言えず、改善の必要がある。	担当者会議は家族面会に合せ、本人のほか各ユニットの計画作成担当者、介護支援専門員(管理者兼務)、職員とでおこなう点はチームケアの実践として評価されます。「包丁では白い物に注意」「数字を覚えるのが得意」等具体的に記した介護計画書を視認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルにそって個別記録を記入している。また申し送り用紙を勤務前に読むことで情報の把握を行い、日課のチェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設老健のOTやNs、栄養士と相談してリハビリや食事メニューを作成。希望に応じ、デイサービスのメニューに参加している。受診や外出に合わせて職員を増やすなど、その時に必要な対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防、地域包括、市役所、自治会など意見交換し協力体制にある。ボランティアによる行事を計画、地域住民の参加も呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応についてあらかじめ主治医に確認をしている。	従来のかかりつけ医を続ける人は5名で、他は元々協力医がかかりつけ医、又は変更していません。医師には常に気にかけてもらえ、毎朝の電話と顔出しが2~3日に1回、定期的な訪問診療が2週に1度あり、管理者との連絡も密です。近接事業所の看護師やOTから直接助言もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の担当Nsが週一回程度訪問。日々の状況を伝え、アドバイスを受けている。また24時間相談できる体制も整い、必要時は訪問依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が可能な状態か、病院や家族との情報を集約し、担当医師や看護師とも打ち合わせ確認して今後の受け入れについての相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に同一法人の老健や病院があり、状態があったところに対応できると説明している。重度化した場合、施設でできることを説明し、方針を共有している。入居時延命措置について、緊急時意思表示表で確認している。	今の所は遠い先のこととして「折々に」との態勢でいて、特段取組んではいません。また法人内には医師や看護師といった専門職も多くいるため、実施についても心配しておりません。ただし、職員は未経験者が多いため、徐々に研修会をおこなうよう準備を始めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年年度初めに行われる救急法の勉強会に参加し、人形を使って演習している。救急や緊急時の対応マニュアルはいつでも見れるよう、スタッフ室に用意してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも津波に備え、室内階段を使用し、実際に入居者を二階へ誘導する訓練を行い、全職員が参加している。回覧板を使用し、地域への参加も呼び掛けている。	「つどいだより」に掲載された写真には利用者も消火活動をしたり、両脇を抱えての搬送にモデル者として参加する様子が見られます。また当日勤務ではない職員のために、普段の日に小分けメニューをおこなう熱心さで、備蓄はレトルト粥と乾パン、水など3日程度用意しています。	地域や家族との親交を深めるためにも、起震車や伝言ダイヤル、消防署の立ち合いもあると良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けや対応に配慮している。	理念に連動した接遇の仕様書が用意され、入職時には全員がレクチャーを受け、共有しています。フロアには職員の優しい声と温かな目配りがみられ、利用者も安心して暮らしていることが視えます。	すべての職員が理念に準じていると言いたい。難しいため、標準化について見直すことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えから望みを汲み取り、耳を傾けて、出来るだけ意に沿えるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて日々を過ごしてもらっているが、趣味の面で課題あり。職員会議などで課題として上げ、取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や定期的な理美容を行っている。季節に合わせた衣類の調節を行っているが、髭剃りなどは小まめに行えるように努めていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを見える位置に配置し、嫌いなものは個別に対応している。食事の下ごしらえや片付けなどは、その人ができる範囲で手伝ってもらっている。	食材業者からの献立と納入によって職員が調理していますが、畑もあり、地域からの応援もあることから飛び入りやアレンジメニューが豊富です。訪問当日も、職員の友人から届いたシラス、畑で採れた海老芋、家族から届いたネギがワカメとヌタになってと、賑やかな食卓でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設されている老健の栄養士から助言を貰ったり、食材はカロリーバランスを考えて、塩分計の使用や宅配業者を利用している。食事量の少ない人などは、食べられる物や補助食品を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の資格を持つ職員が在籍しており、口腔内の確認やケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりに合わせた時間ごとのトイレ介助、本人の希望時に行っている。また、必要な方にはコールを配置し、対応している。	トイレの自立は5名ほどです。大半は「ベッドからの起き上がりからトイレまでの見守りは必要」「声掛けは要る」という人で、オムツはゼロです。入所当初は「ポータブルじゃなきゃ」という人、オムツだった人も現在では改善向上しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎晩ヨーグルトをつけて便秘の予防に努めている。レクリエーションで体操などを取り込んで、体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方などは、その人に合わせた入浴回数に浴している。曜日は決めていますが、希望があれば変更し、嫌いな方は曜日を決めず、声掛けや外出後などのタイミングを探り、入浴してもらっている。	「毎日入りたい」という人はいませんが、希望に応える態勢であり、現状一番多い人は1日おきです。拒否までの人はいませんが、週2~3回を清潔のめやすとしていて、冬至には季節の謂われを話し伝え、ゆずや浴剤を好みで選んでもらうようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後と休息の時間を作っている。夜の寝る時間は本人の希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握できるように、服薬表を作成して取り組んでいる。健康状態に応じて主治医と連絡を取り、医師の指示の下で内服支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に食器拭きや洗濯物など、役割をもって行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人や家族の希望にそって、買い物やお祭りなど外出に行けるよう取り組んでいる。	朝の掃除が終わったら、事業所を周遊して畑の観察などおこない1日に1回は戸外にでることが叶っています。毎月の行事には磐田農高バラ園、掛川花鳥園、小園神社への外出支援のメニューがあることを「つどいだより」で確認しました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している方が殆どだが、希望されている方は家族の同意の下、本人管理で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者あてに荷物などが届いた場合、お礼の電話など希望に応じてして利用できるよになっている。年賀状を家族や知人に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地よく過ごしてもらえる様に努めている。季節に合わせた室温で過ごしてもらっている。	気の合う人、症状などを鑑み、小さめの3つのテーブルに分かれることができています。瀟洒なブチホテルのような空間は職員の手により細かい箇所まで清掃が行き届き、「つどい神社」「門松」のクラフトや「ろう梅」「菜の花」が滋味ある器に生けられて、季節が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルになってしまう方もいる為、本人の希望を含めて場所を決めている。同じテーブルの方と協力し合ったり、会話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていたものや、馴染みのある物、好きな物を増やし、本人らしい居室作りに努めていきたい。希望のある方はリスクを説明した上で、本人管理でお菓子などを置いている方もいる。	木調の介護用ベッドとチェスト、カーテン、エアコンが予め備わり、全体として持ち込みは少なくスッキリとした居室です。チェストは特注品で中味が見えるよう極力扉をつけず、そのため軽くなって転倒リスクが高まるところを重さを付加して、簡単には動かないものとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで、歩行器や車いすの方は自由に自走されている。手すりは浴室や廊下、リビングやトイレ、玄関などに配置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団 木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 2階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25番地1		
自己評価作成日	平成28年12月29日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2296900075-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が御家族様及び地域の皆様との交流を通して、地域に開かれた風通しの良い施設を目指しております。日々の散歩・外出、イベント等、外へ出る機会を出来る限り計画し、また地域の皆様が気軽に足を運んで頂けるよう、イベントの開催や防災訓練にも力を入れています。入居者本人とご家族が望む生活の実現に向けて、敷地内にある畑を活用し、夏野菜から秋の収穫まで一年を通して、農作業活動を入居者職員と共に汗を流しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目となり、マルチ(太陽光を集めるシート)まで導入して本格的に耕作をおこない、茄子、ゴーヤ、南瓜、紫蘇、白菜、海老芋、ニンニクと農家顔負けに畑も育っています。「朝日をしっかり浴びる」ことに着眼して、午前うちに事業所を周遊して畑の観察などすることで1日に1回は戸外にでることが叶い、またすぐ近くに家宅のある利用者のオープンガーデンを休憩処とさせてもらい、地域交流にもつなげています。流しソーメンと焼き芋企画では、ソーメンを流す竹は子どもたちの集いに貸し出すことになり、また「甘くておいしい」と人気の焼き芋は、福田ふれあい祭りへの出店に至り、「とても2年目とは思えない」暮らしぶりに感心しきりです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を玄関や2階エレベーターホールに掲示して、理念の実現に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人合同開催による夏祭りや、交流会の呼びかけなど、地域のボランティア活動の受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への参加を通して事業所の特徴を知っていただくこと。運営推進会議にて日ごろの活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の生活の様子や活動状況の報告をしている。皆さまの意見を参考にしてサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めには入居状況の報告をしている。市職員への相談、助言、指導を受けて対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をせず、職員で協力しながら見守り対応している。同法人である老健での勉強会にも参加し、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会への参加にて、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方もおり、保佐人と連絡を取り合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書と契約書を交付し、説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱を設置し、窓口を明確化してある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回間隔で、ユニット会議を設けて定期的に意見や情報の共有化を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて、働きやすい職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて、定期的に確認している。法人の月一で開催する勉強会への参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福ちゃん会、事業者連絡会や地域ケア会議への参加をして、情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居できるように、一回又は複数回の面接する機会を設け、要望を聞くことで、信頼されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困ったことや不安があれば、いつでも相談できる事を説明し、可能な限り時間外の相談や訪問も受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、医師や老健のNsやOT、栄養士と連携し、その方にあったサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念の下、個人を尊重し支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時本人とゆっくり過ごしてもらえぬ雰囲気作りを整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容院など)や友人との交流が継続できる支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のテーブル、席を工夫して良い関係が作れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は特に行われていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の行動を照らし合わせ、言葉にならない思いを感じ取り、再度意向を確認するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取り、家族やケアマネによる情報をすり合わせて、今までの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムによるアセスメントを行っているが、有する力の把握がし辛い為、アセスメント表を検討中である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週一回の職員会議で、次週の個別援助計画を作成、必要時モニタリングや介護計画の見直しを行っているが、記録が十分とは言えず、改善の必要がある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルにそって個別記録を記入している。また申し送り用紙を勤務前に読むことで情報の把握を行い、日課のチェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設老健のOTやNs、栄養士と相談してリハビリや食事メニューを作成。希望に応じ、デイサービスのメニューに参加している。受診や外出に合わせて職員を増やすなど、その時に必要な対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防、地域包括、市役所、自治会など意見交換し協力体制にある。ボランティアによる行事を計画、地域住民の参加も呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応についてあらかじめ主治医に確認をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の担当Nsが週一回程度訪問。日々の状況を伝え、アドバイスを受けている。また24時間相談できる体制も整い、必要時は訪問依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が可能な状態か、病院や家族との情報を集約し、担当医師や看護師とも打ち合わせ確認して今後の受け入れについての相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に同一法人の老健や病院があり、状態があったところに対応できると説明している。重度化した場合、施設でできることを説明し、方針を共有している。入居時延命措置について、緊急時意思表示表で確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年年度初めに行われる救急法の勉強会に参加し、人形を使って演習している。救急や緊急時の対応マニュアルはいつでも見られるよう、スタッフ室に用意してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも津波に備え、室内階段を使用し、実際に入居者を二階へ誘導する訓練を行い、全職員が参加している。回覧板を使用し、地域への参加も呼び掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えから望みを汲み取り、耳を傾けて、出来るだけ意に沿えるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて日々を過ごしてもらっているが、趣味の面で課題あり。職員会議などで課題として上げ、取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や定期的な理美容を行っている。季節に合わせた衣類の調節を行っているが、髭剃りなどは小まめに行えるように努めていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを見える位置に配置し、嫌いなものは個別に対応している。食事の下ごしらえや片付けなどは、その人ができる範囲で手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設されている老健の栄養士から助言を貰ったり、食材はカロリーバランスを考えて、塩分計の使用や宅配業者を利用している。食事量の少ない人などは、食べられる物や補助食品を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の資格を持つ職員が在籍しており、口腔内の確認やケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりに合わせた時間ごとのトイレ介助、本人の希望時に行っている。また、必要な方にはコールを配置し、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎晩ヨーグルトをつけて便秘の予防に努めている。レクリエーションで体操などを取り込んで、体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方などは、その人に合わせた入浴回数に浴している。曜日は決めているが、希望があれば変更し、嫌いな方は曜日を決めず、声掛けや外出後などのタイミングを探り、入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後と休息の時間を作っている。夜の寝る時間は本人の希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握できるように、服薬表を作成して取り組んでいる。健康状態に応じて主治医と連絡を取り、医師の指示の下で内服支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に食器拭きや洗濯物など、役割をもって行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の希望にそって、買い物やお祭りなど外出に行けるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している方が殆どだが、希望されている方は家族の同意の下、本人管理で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者あてに荷物などが届いた場合、お礼の電話など希望に応じてして利用できるようになっていて。年賀状を家族や知人に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地よく過ごしてもらえる様に努めている。季節に合わせた室温で過ごしてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルになってしまう方もいる為、本人の希望を含めて場所を決めている。同じテーブルの方と協力し合ったり、会話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていたものや、馴染みのある物、好きな物を増やし、本人らしい居室作りに努めていきたい。希望のある方はリスクを説明した上で、本人管理でお菓子などを置いている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで、歩行器や車いすの方は自由に自走されている。手すりは浴室や廊下、リビングやトイレ、玄関などに配置してある。		